

我が国で発見された生理活性ペプチド “アドレノメデュリン” の研究開発

アドレノメデュリンのトランスレーショナルリサーチ及び創薬開発

国立研究開発法人循環器病研究センター， 国立大学法人宮崎大学， ひむかAMファーマ株式会社

背景・問題点

- 脳梗塞急性期治療は進歩しているが、依然として脳卒中の死亡者数は年間11万人を超える。
- 死亡には至らなくても、脳梗塞をきっかけとして寝たきりや認知症を発症するケースは非常に多い。
- 医療コストも莫大なものとなっている。

目的・改善点・製品概要

- アドレノメデュリンは脳梗塞に対する生体防御反応を司り、治療効果が期待できる。
 - 血管新生誘導
 - 炎症抑制
 - 組織保護
 - 梗塞部位の縮小

上市後の世の中がどう変わるか

- 脳梗塞発症・治療後のQuality of Lifeの改善
 - 脳の組織障害・機能障害の回復
 - 治療により再開した血流を利用した組織再生

脳梗塞の予後・Quality of Lifeを2割改善できれば、4000億円/年以上の経済効果が期待される。

アドレノメデュリン(AM)

潰瘍性大腸炎 心不全 心筋梗塞等への臨床応用が計画されている

